

隠岐諸島で発見された水生甲虫の新種について

林 成多 (ホシザキ野生生物研究所)

隠岐諸島に生息するヒメドロムシ科の一種が新種であることが判明し、サンインヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria sotai* Hayashi et Yoshitomi, 2015 として記載を行った。この新種の発見から記載までの経緯や、現在解明中の生態について報告する。

この新種は、ヒメドロムシ科のヒメツヤドロムシ属に分類されるが、発見当初は同属のマルヒメツヤドロムシと区別されていなかった。隠岐産の個体について、ミトコンドリア DNA の塩基配列に基づく分子系統解析（類縁関係を推定する手法）を行ったところ、マルヒメツヤドロムシとは異なる種である可能性が高いことが判明した。そこで、オスの生殖器を含めて形態について詳しく調べてみたところ、形態でも区別できることを確認した。

新種として正式に認められるには、昆虫の場合は国際動物命名規約に従って、ラテン語で綴った学名、基準となる標本（タイプ標本）とその保管場所の設定、種の特徴などを明記して、学術雑誌などで発表する必要がある。今回の新種は学名をザイツェヴィアリア・ソタイ（種名は DNA 分析を行った曾田貞滋博士にちなむ）とし、基準となる標本は隠岐諸島の中ノ島産（マルヒメツヤドロムシが生息しないため、混同する心配がない）とした。基準となる標本は共同研究者である吉富博之博士の所属する愛媛大学ミュージアムに保管されている（日本有数の昆虫標本のコレクションがある施設）。

新種の特徴が判明したので、改めて山陰各地の標本を調べてみたところ、山陰本土側の島根県や鳥取県にも生息していることは判った。いずれも小規模な里地の河川や水路が生息地であり、これまでマルヒメツヤドロムシと混同されてきたため、その存在が長い間知られていなかったことになる。山陰地域以外の分布は不明であるため、今後調べていく必要がある。



新種サンインヒメツヤドロムシ